

# TARO RACE REPORT

TARO SEKIGUCHI SANMEI Team TARO PLUSONE 2024

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

## NGK SPARK PLUGS SUZUKA 2&4 RACE

2024 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦

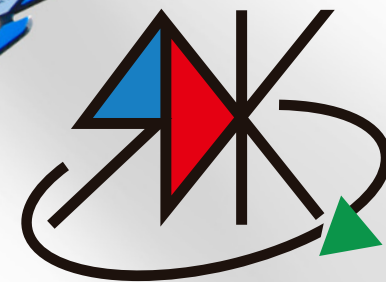


- 三重県
- クラス / JSB1000
- 鈴鹿サーキット
- マシン / BMW M1000RR
- 1周 = 5.821km
- タイヤ / BRIDGESTONE

### JSB1000 #12 関口 太郎

RACE

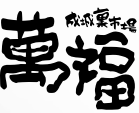
3月9日(土) 天候: 晴れ コース: ドライ  
**予選** 29番手 (タイム: NO TIME)  
 3月10日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ  
**決勝** DNS



三明電気工事



Fujimoto Electric Industry  
藤本電機工業



Motorcycle CS2	OKA	ファミリー ロップ 旅籠屋	YONEMARIN	Burgundy	ETOLE 25	府中不動産	バイク館	20kmh	ARAB	A-big Motorrad	Moto Shop Kouwa		
HYOD	Arai	BRIDGESTONE	ADVANTAGE	Team PLUS ONE	PLUS μ	WIND JAMMERS	SUPER NOW	INOMATA	eif	RK	NGK	Moto United	
FIXFIT	SHORAI	S&E PRECISION	epress	Body Crystal	MDF	TCM	RACING MAX	R.S. R.C.S.	9999	Po	TRIP	BEEPRESSO	TK LABO

# 噛み合わなかった極寒の鈴鹿開幕戦

三重県・鈴鹿サーキットで2024年の全日本ロードレース選手権が開幕した。今年は、3月9日（土）・10日（日）と例年より約一カ月も早く、その準備に追われた。関口にとって、SANMEI Team TARO PLUSONEとしてJSB1000クラスで5年目のシーズンがスタート。2月末には事前テストが行われたが、気温は上がらず、冷たい強風が吹いており転倒するライダーも少なくなかった。開幕戦はCN燃料ではなくハイオク、昨年最終戦ではキットエンジンを使用した。今回はスタンダードエンジンのため、そのアジャストを極寒のコンディションのもとで慎重に進めていった。

と、フィーリングはよかったが、問題は気温だった。この日、最後となった走行でも、調子はよかったが、日が陰り、風が吹いてくると気温が下がってきていた。関口は、この状況を把握し慎重に走行を続けていたが、3コーナーにさしかかると、一瞬のうちにフロントをすくわれ転倒を喫してしまう。約180km/hでマシンから放り出された関口は、路面に叩きつけられたままグラベルにすべっていくと、スポンジバリアの下に潜り込んでしまい、しばらく動くことができなかった。すぐにサーキットのスタッフが駆けつけ救護されたが、全身を強打。レース後の診断で肋骨を6本骨折していたことが分かったが、この時点では、痛みを堪えレースに出る道を模索していた。

金曜日はメディカルチェックを受けたが、走行は見合わせて身体を休めた。土曜日の公式予選を走る予定だったが、セッション開始直前に雪やヒョウ混じりの雨が降り、そのときに行われていた4輪のレースでは、スピンする選手が多発していた。この状況から、予選はキャンセルとなってしまい、グリッドは金曜日のタイムで決まることになってしまう。金曜日に走行していない関口は、最後尾からスタートすることになっていた。

日曜日にも青空が広がったが、最高気温は10度ほどと寒い一日となった。朝のウォームアップ走行は低温ということもありリスクを回避しキャンセル。レースまで少しでも身体を温存していた。しかし、レーシングスーツを着ただけ



でも肋骨は圧迫され、グリッドに向かうサイティングラップでもコーナーでマシンを切り返すと電気が走るような痛みが走っていた。関口は、ウォーミングアップからグリッドに着かず、ピットに戻りリタイヤを選択したのだった。



レースウィークに入っても天気はよかったものの、気温は低いままだった。初日となった木曜日の特別スポーツ走行は4本あり、1本目は10時から行われたが気温が低いこともありキャンセルし、2本目から走り始める。タイヤ選択と足回りのセットを進めながらペースを徐々に上げていく



「今シーズンも三明電気工事を始め、多くのスポンサーの皆様に支えていただき開幕戦を迎えることができました。本当にありがとうございます。寒いコンディションでのレースになるため、慎重に走っていたのですが、レースウィーク初日に転倒してしまい肋骨を6本骨折してしまいました。何とかレースを走ろうとしたのですが、身体の痛み、最後尾からリスクのあるレースとなることは分かっていたので、ピットに戻りリタイヤを選択しました。応援してくださっている皆様、レースを走ることができず申し訳ありません。早く治して、次戦は、しっかり戦えるように備えます」

関口 太郎

